

## 2 大豆

### (1) 国際的な大豆需給の概要

#### ○2009/10年度の大豆需給（予測）のポイント

大豆の供給面では、米国においては作付面積が過去最高を記録し、前年度低下した単収の回復が見込まれる。また南米では天候が平年並に推移すれば単収が回復する見込みであり、世界の生産量は増加が見込まれている。

需要面では、EUで減少するものの、引き続き中国等で搾油用需要を中心に拡大することから、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから、期末在庫率は前年度を上回ると見込まれる。

#### 【生産量】

生産量は、中国等で減少するものの、世界第1位の生産・輸出国である米国や南米のアルゼンチン、ブラジル、パラグアイ等で増加することから、世界全体では前年度より39.4百万トン増加（18.7%）し、250.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で4.2百万トン上方修正されており、国別には米国、ブラジル、アルゼンチンで上方修正された。

#### 【消費量】

消費量は、搾油用需要を中心にEUで減少するものの、アルゼンチン、中国等で増加が見込まれることから、世界全体では前年度より13.0百万トン増加（5.9%）し、233.4百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.7百万トン上方修正されており、国別には中国、米国、EU等で上方修正された。

#### 【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より2.5百万トン増加（3.3%）し、79.4百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では前年度干ばつで減産したアルゼンチン、パラグアイで輸出量の増加が見込まれ、需要が集中していたブラジルで輸出量の減少が見込まれる。一方、輸入国では、貿易量の約5割を輸入する中国やEUの輸入量が減少するものの、その他のアジア諸国を中心に輸入量の増加が見込まれる。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.5百万トン上方修正されており、国別には米国、アルゼンチン、ブラジルの輸出量と中国、EUの輸入量が上方修正された。

#### 【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから世界全体では前年度より15.0百万トン増加（35.4%）し、57.4百万トンとなり、期末在庫率は24.6%（5.4ポイント増）と前年度を上回る見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.6百万トン上方修正されており、国別には米国、中国、ブラジル等で上方修正された。

表－1 世界の大豆需給

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生 産 量</b>	<b>221.1</b>	<b>210.8</b>	<b>250.2</b>	<b>4.2</b>	<b>18.7</b>
米国	72.9	80.7	90.3	1.9	11.9
ブラジル	61.0	57.0	63.0	1.0	10.5
アルゼンチン	46.2	32.0	53.0	0.5	65.6
中国	14.0	15.5	14.5	-	▲ 6.5
インド	9.5	9.1	9.0	-	▲ 1.1
パラグアイ	6.9	3.9	6.7	-	71.8
カナダ	2.7	3.3	3.5	-	6.1
<b>消 費 量</b>	<b>229.8</b>	<b>220.4</b>	<b>233.4</b>	<b>1.7</b>	<b>5.9</b>
うち搾油用	201.9	192.6	202.5	1.5	5.1
中国	49.8	51.4	54.6	0.6	6.2
米国	51.6	48.0	50.9	0.2	6.0
アルゼンチン	36.2	33.3	36.6	-	10.1
ブラジル	35.1	34.3	34.8	0.1	1.4
EU-27	16.1	14.1	13.5	0.2	▲ 4.3
インド	9.4	8.8	9.3	-	5.4
日本	4.2	3.8	4.1	-	8.2
<b>貿 易 量</b>	<b>79.5</b>	<b>76.9</b>	<b>79.4</b>	<b>1.5</b>	<b>3.3</b>
(輸出)					
米国	31.5	34.9	36.1	0.5	3.3
ブラジル	25.4	30.0	24.0	0.3	▲ 20.1
アルゼンチン	13.8	5.7	10.2	0.5	76.6
パラグアイ	5.4	2.4	4.9	-	104.2
カナダ	1.8	2.0	2.0	-	1.3
(輸入)					
中国	37.8	41.1	40.5	1.0	▲ 1.5
EU-27	15.1	13.0	12.7	0.3	▲ 2.3
日本	4.0	3.4	4.0	-	16.3
メキシコ	3.6	3.1	3.5	-	14.0
台湾	2.1	2.1	2.3	-	6.1
タイ	1.8	1.5	1.7	-	12.9
インドネシア	1.1	1.2	1.6	-	33.3
<b>期 末 在 庫 量</b>	<b>52.9</b>	<b>42.4</b>	<b>57.4</b>	<b>2.6</b>	<b>35.4</b>
アルゼンチン	21.8	16.0	22.8	-	41.9
ブラジル	18.9	11.7	16.1	0.6	37.8
中国	4.2	9.0	8.9	0.7	▲ 1.4
米国	5.6	3.8	7.4	1.1	95.6
EU-27	0.8	0.4	0.6	0.0	57.2
<b>期 末 在 庫 率</b>	<b>23.0%</b>	<b>19.2%</b>	<b>24.6%</b>	<b>0.9</b>	<b>5.4</b>

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」

## (2) 大豆の主要生産・輸出国等の需給状況

### ア 米国

#### 【需給状況】

米国の生産量は、需給のひっ迫見込みから農家の作付け意欲が増加し、作付面積が過去最高を記録した。また、天候が良好に推移したことから、単収は過去最高を記録した。前年度より9.5百万トン増加(11.9%)し、過去最高の90.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、畜産向けの需要の回復による大豆粕需要の若干の増加や、搾油用需要の増加が見込まれることから、前年度より2.9百万トン増加(6.0%)し、50.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量が増加すると見込まれることから、前年度より1.2百万トン増加(3.2%)し、36.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、3.6百万トン増加(95.7%)し、7.4百万トンとなり、期末在庫率は8.5%(3.9ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収の上方修正により生産量で1.9百万トン、消費量で0.2百万トン、中国の需要増により輸出量で0.5百万トン上方修正され、輸入量で0.1百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量で1.1百万トン上方修正された。

#### 【生育進捗状況及び作柄】

大豆の主要18州の作付けは、雨がちな天候の影響でコーンベルト東側の主産地であるイリノイ州等で作付けが遅れたものの、7月初めにほぼ終了した。

その後は天候にも恵まれ、生育の遅れは取り戻しつつあったが、10月に入り低温で雨がちな天候により収穫作業に遅れが生じた。収穫率は94%で、前年度や過去5年の平均に比べ3ポイント下回っているものの、11月中には収穫がほぼ終了すると見込まれる。

作柄については、優良～良までの合計は63%と、前年度最終の57%を上回っている。

我が国の輸入先国シェア 1位 (2008年数量ベース73.5%)  
世界の生産量シェア 1位 (2009/10年度 36.1%)  
輸出量シェア 1位 (2009/10年度 45.4%)

表-2 米国の大豆需給 (市場年度：9月～翌年8月)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	72.9	80.8	90.3	1.9	11.9
消費量	51.6	48.0	50.9	0.2	6.0
うち搾油用	49.1	45.2	46.1	0.1	2.0
輸出量	31.5	34.9	36.1	0.5	3.2
輸入量	0.3	0.4	0.2	▲ 0.1	▲ 38.9
期末在庫量	5.6	3.8	7.4	1.1	95.7
期末在庫率	6.7%	4.5%	8.5%	1.2	3.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	25.96	30.22	31.01	-	2.6
単収(t/ha)	2.81	2.67	2.91	0.06	9.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」

#### ○ 米国大豆の生育進捗状況 (11月22日現在)

[生育進捗状況(2009/10年度大豆)]

収穫率 94% (平年差：▲3p、前年差：▲3p)

[作柄]

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
大豆	2009/10	15	48	25	8	4
	前年度同時期	...	...	...	...	...
	前年度最終	12	45	29	10	4

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」

注1：生育進捗状況の( )内は同時期の平年値(過去5年)及び前年同時期との比較である。

注2：作柄は11月1日現在で、前年度同時期のデータは含まれない。

## イ ブラジル

### 【需給状況】

ブラジルの生産量は、世界的な大豆需要の増加から、依然国際価格が高水準であることや、肥料価格下落の影響や、とうもろこし等からの作付け転換により収穫面積の増加が見込まれることから、前年度より6.0百万トン増加(10.5%)し、63.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用の増加に伴い前年度より0.5百万トン増加(1.4%)し、34.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、搾油の増加、アルゼンチンの生産量の回復により集中していたブラジルへの需要が減少し、前年度より6.0百万トン減少(▲20.1%)し、24.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、4.4百万トン増加(37.8%)し、16.1百万トンとなり、期末在庫率も27.4%(9.2ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、大豆価格の上昇や、とうもろこしに比べ収益性に優れることから面積がシフトしたこと等により生産量で1.0百万トン、消費量で0.1百万トン、供給増や海外需要増により輸出量で0.3百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量で0.6百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大豆の作付けは、8月末から9月初めにかけて雨が降ったことから、早期作付けに適した状態となり、平年より早く作付けが開始され、11月20日現在で7割程度作付けされた。主産地である中西部のマトグロッソ州等では作付けがほぼ終了したが、南部のリオグランデドスル州では4割程度である。なお、南部ではエルニーニョの影響で雨がちな天候となっており、大豆さび病の懸念など生育期の今後の天候に注視が必要。

## ウ カナダ

### 【需給状況】

カナダの生産量は、前年度に上昇した単収が低下するものの、主産地である東部のオンタリオ州とケベック州で収穫面積が増加する見込みであることから、前年度より0.2百万トン増加(6.1%)し、3.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用を中心に増加することから、前年度より0.1百万トン増加(6.8%)し、1.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並みの2.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.1百万トン増加(43.7%)し、0.3百万トンとなり、期末在庫率も6.6%(1.8ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

カナダの大豆は、一部の地域では低温が続き、生育が遅れが生じたことで収穫の開始が遅れたものの、現在は収穫作業が終盤を迎えている。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2008年数量ベース 15.3%)  
世界の生産量シェア 2位 (2009/10年度 25.2%)  
輸出量シェア 2位 (2009/10年度 30.2%)

表-3 ブラジルの大豆需給 (市場年度: 10月~翌年9月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Conab)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	61.0	57.0	63.0 (63.0)	1.0	10.5
消費量	35.1	34.3	34.8 (36.6)	0.1	1.4
うち搾油用	32.1	31.4	31.8 ...	0.2	1.4
輸出量	25.4	30.0	24.0 (24.9)	0.3	▲ 20.1
輸入量	0.2	0.1	0.2 (0.1)	-	200.0
期末在庫量	18.9	11.7	16.1 (3.7)	0.6	37.8
期末在庫率	31.3%	18.2%	27.4% (6.1%)	0.8	9.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	21.30	21.70	22.70 (22.55)	0.20	4.6
単収(t/ha)	2.86	2.63	2.78 (2.80)	0.02	5.7
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「World Agricultural Production」、 Conab (November 5, 2009)」					

我が国の輸入先国シェア 3位 (2008年数量ベース 8.8%)  
世界の生産量シェア 7位 (2009/10年度 1.4%)  
輸出量シェア 5位 (2009/10年度 2.5%)

表-4 カナダの大豆需給 (市場年度: 8月~翌年7月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	2.7	3.3	3.5 (3.6)	-	6.1
消費量	1.8	1.7	1.8 (1.9)	-	6.8
うち搾油用	1.4	1.3	1.4 ...	-	6.9
輸出量	1.8	2.0	2.0 (1.9)	-	1.3
輸入量	0.3	0.4	0.4 (0.3)	-	▲ 2.3
期末在庫量	0.2	0.2	0.3 (0.3)	-	43.7
期末在庫率	4.2%	4.8%	6.6% (8.6%)	-	1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.17	1.21	1.40 (1.40)	-	15.7
単収(t/ha)	2.31	2.73	2.50 (2.58)	-	▲ 8.4
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「World Agricultural Production」、 AAFC 「Grains and Oilseeds (October 8, 2009)」					

## エ 中国

### 【需給状況】

中国の生産量は、主産地の一部で乾燥天候により単収が減少し、収穫面積がとうもろこしにシフトして減少すること等から、前年度より1.0百万トン減少（▲6.5%）し、14.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要の増加等から前年度より3.2百万トン増加（6.2%）し、54.6百万トンとなる見込みである。

輸入量は国家備蓄政策による影響で、国内大豆に比べ輸入大豆の割安感から輸入が前年度は増加したが、在庫が積み増しされたこと等から、0.6百万トン減少（▲1.5%）し、40.5百万トンとなる見込みである。なお、中国の輸入量は世界の約5割を占めている。

一方、輸出量は、前年度より0.1百万トン増加（25.0%）し、0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.1百万トン減少（▲1.4%）し、8.9百万トンとなり、期末在庫率も16.1%（1.3ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の消費量で0.1百万トン、輸入量で0.4百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫量で0.3百万トン上方修正された。

また、消費量で0.6百万トン、旺盛な搾油需要や飼料用大豆粕需要により輸入量で1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量で0.7百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

中国の平年生産量の約40%を占める黒龍江省では、生育期の5月に乾燥天候で同省の45%以上が乾燥状態となり、さらに6～7月の降雨により被害があったことから、単収の低下が予想される。9月から収穫が始まり、10月中に収穫が終了した。

### 【貿易情報等】

2007年12月に増値税の輸出還付を取消し、2008年1月から輸出税を課していたが、残りの黄大豆と種子用大豆の輸出税についても2009年7月1日に撤廃された。

なお、中国政府は2009年の作付けを推進させるため、725万トンの備蓄をしていた。9月頃には新穀の収穫が始まることから、在庫スペースの確保のため、7月下旬から11月18日までに約800万トンの競売（再競売あり）を行ったが、最低入札価格が現物市場の価格よりも上回るため、約11万トンの落札に留まっている。

我が国の輸入先国シェア4位（2008年数量ベース 2.3%）  
世界の生産量シェア 4位（2009/10年度 5.8%）  
輸入量シェア 1位（2009/10年度 51.0%）

表－5 中国の大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.0	15.5	14.5 (14.5)	-	▲ 6.5
消費量	49.8	51.4	54.6 (…)	0.6	6.2
うち搾油用	39.5	41.0	44.1 (44.2)	0.3	7.5
輸 出 量	0.5	0.4	0.5 (…)	-	25.0
輸 入 量	37.8	41.1	40.5 (42.3)	1.0	▲ 1.5
期末在庫量	4.3	9.0	8.9 (…)	0.7	▲ 1.4
期末在庫率	8.5%	17.4%	16.1% (…)	1.2	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.75	9.13	8.80 (8.90)	-	▲ 3.6
単収(t/ha)	1.60	1.70	1.65 (1.63)	-	▲ 2.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (November 20, 2009)」

## オ アルゼンチン

### 【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、前年度は干ばつの影響で大幅な減少となったが、小麦等から大豆への面積のシフトで前年度より21.0百万トン増加（65.6%）し、53.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要を中心に増加することから、前年度より3.3百万トン増加（10.1%）し、36.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復に伴い、4.4百万トン増加（76.5%）し、10.2百万トンとなる見込み。

この結果、期末在庫量は前年度より6.8百万トン増加（41.9%）し、22.8百万トンとなり、期末在庫率は48.6%（7.6ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、他の作物から大豆への面積のシフトにより生産量で0.5百万トン、輸出供給増や旺盛な海外需要により輸出量で0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量で改訂されなかった。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大豆の作付けは、10月末に始まった。一部産地での雨不足により作付けが遅れたものの、最近の降雨で改善しつつあり、11月19日現在で4割程度作付けされ、12月中旬まで行われる。

主産地の一部では乾燥天候で土壌水分が不足していることから、作付期から生育期にかけての天候に注視が必要。

### 【貿易情報】

大豆輸出税を中心とした政府の農業政策に対し、2009年3月に大豆の輸出税の現行35%からの引き下げを求め、穀物の売却を拒否するストライキを行った。

なお、アルゼンチンの上院は8月20日に、大統領が穀物輸出税を設定する権限を1年間延長することを承認したことから、8月末に再度ストライキを行っており、依然として政府と農家で対立が続いている。

（世界の生産量シェア 3位（2009/10年度 21.2%）  
輸出量シェア 3位（2009/10年度 12.8%））

表-6 アルゼンチンの大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

（単位：百万トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	46.2	32.0	53.0 (48.0)	0.5	65.6
消 費 量	36.2	33.3	36.6 (…)	-	10.1
うち搾油用	34.6	31.9	35.0 (33.3)	-	9.7
輸 出 量	13.8	5.8	10.2 (7.8)	0.5	76.5
輸 入 量	3.0	1.3	0.5 (…)	-	▲ 61.2
期末在庫量	21.8	16.0	22.8 (24.7)	-	41.9
期末在庫率	43.5%	41.1%	48.6% (…)	▲ 0.5	7.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.37	16.00	18.80 (18.60)	0.25	17.5
単収(t/ha)	2.82	2.00	2.82 (2.58)	▲ 0.01	41.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (November 20, 2009)」